

CSR経営の 着実な実践に 向けて

すべてのステークホルダーの
“ココロ”を満タンにするために、
グループ全員が一体となって
CSRを推進していきます。

コスモ石油株式会社 代表取締役社長
木村 彌一

木村 弥一



—— 連結中期経営計画と連結中期CSR計画 の進捗状況について

地球温暖化問題や減少する国内需要への対応など、石油業界を取り巻く環境は大きな変化の中にあります。また、2008年度は100年に一度と言われる経済危機を挟んで原油価格が乱高下した影響もあり、経営環境は一層厳しさを増しています。この厳しい環境下でコスモ石油グループは、「収益基盤の再構築」「次の成長への布石」を基本方針とした「第3次連結中期経営計画」をスタートさせました。原油価格の大幅下落による在庫評価の影響を受け、2008年度は大幅な赤字決算となりましたが、事業基盤の強化や新規事業の推進などで、中期経営計画の成果は徐々に実を結びつつあります。

また、中期経営計画のベースである「CSR経営の推進」を基本方針とした「第2次連結中期CSR計画」も2008年度からスタートし、CSRの理念がグループ内に浸透し、環境保護

や社会貢献活動などへの社員の自発的な参加も盛んになりつつあります。課題はまだありますが、一定の評価ができる段階になったと考えています。

—— 「コスモ石油グループ企業行動指針」 を改訂

第2次連結中期CSR計画では「グループ連結でのCSR推進体制の強化」を重点項目に掲げており、経営理念の浸透と社員のCSR活動への自発的な参加をさらに促すために、昨年「コスモ石油グループ企業行動指針」を改訂しました。今後、CSR経営をさらに推進させるために、社員一人ひとりが経営理念をどのように行動に移していくかを、わかりやすくすることが改訂の目的です。本文の主語を「私たちは」に統一し、社員が具体的な行動に移せる内容にしました。社員自身の行動が会社の業績につながり、そのことがそれぞれの豊かな生活につながっていくことを、全員が理解して、日々の業務で実践していけるよう取り組んでいます。

—— 石油の安定供給と安全操業を実現するために

現代の産業・社会に不可欠なエネルギーである石油を安定供給し続けることは、コスモ石油グループの最大のミッションであり、CSR経営の基盤でもあります。資源に乏しいわが国が石油を安定的に確保するためには、産油国との良好な関係が不可欠です。コスモ石油グループは、約40年にわたりUAE(アラブ首長国連邦)、とくにアブダビ首長国との信頼関係を築いてきました。こうした実績を活かして、2007年にはアブダビ首長国の政府系投資会社IPIC(International Petroleum Investment Company)と提携し、安定供給の強化とともに提携によるシナジーを追求しています。

また、安定供給の実現には、サプライチェーン全体において、安全で円滑な事業を推進していくことが欠かせません。製油所での安全管理については、2006年4月に千葉製油所で発生した爆発火災事故をきっかけに、装置の老朽化対策などを含むさまざまな取り組みを行ってきました。またその後も、ヒューマンエラーといった問題に対して社員に向けて「安全再強化宣言」や「安全の最優先」といったメッセージを発信し、安全行動の再徹底を図っています。

これらの結果、設備管理やコンプライアンス面では、着実に成果があらわれてきたと考えていますが、今後もさまざまな施策を通じて事故ゼロの達成・維持に取り組んでいかなければなりません。その実現のためには、社員一人ひとりが、“規則を守る”だけでなく、安全に関して深く考え、より安全なオペレーションを自発的に提案して実現できる風土、安全を“守る”だけでなく積極的に“創り出す”風土を醸成していきたいと考えています。

—— 人材活用や人権問題についての取り組み

企業の主役はコスモ石油グループで活躍する一人ひとりの社員に他なりません。人は企業における財産であり、企業活動を行ううえでの原動力です。「社員があって会社がある」、このような意識をもっと高めなければならないと思います。人事制度や福利厚生の充実を図り、働きやすい職場環境づくりに取り組むのはもちろんですが、その前提となる人間重視・人権尊重の経営を一層強化・徹底し、活力ある組織風土を維持していきたいと考えています。

また、このような取り組みの一環として、国連が提唱する

「グローバル・コンパクト」に2006年から参加し、人権・労働基準・環境・腐敗防止などの基本原則を尊重した経営を推進しています。

—— 地球環境問題についての取り組み

石油は私たちの豊かな生活に欠かすことのできないものですが、環境に大きな負荷を与えるものでもあります。この現実を認識し、地球環境との共存を図るため、日々の事業活動における環境負荷低減を強化しています。このような取り組みへの社員の意識を高めるために、「個人版チーム・マイナス6%」活動への自発的参加を促しています。2008年度の1年間でその参加者が1,200名以上増加するなど、個人レベルの環境保全活動への取り組みも、大きく広がりつつあります。

また、これまで私たちが蓄積した技術を活用し、地球環境問題に貢献する新規事業の開拓にも積極的に取り組んでいます。その代表例が、コスモ石油グループが低コストで大量生産に成功したALA(5-アミノレブリン酸)事業です。現在、肥料として製品化しており、農産物の収穫増や品質向上に貢献する画期的な製品として世界各国で高く評価されています。また太陽熱・太陽光発電やバイオマスなど再生可能エネルギー分野の技術開発も推進しています。

—— 今後のCSR経営の展望について

今後、CSR経営を強化するためには、企業の社会的責任についての定義をもっと明確にしていくことが大切だと考えています。これまで「業績」と「CSR」を経営の両輪として位置づけてきましたが、これらをさらに一体のものとして発展させ、双方の位置づけを高めていく必要があると考えています。

コスモ石油グループの今後のCSRのあり方を考えるうえで、「ココロも満タンに」という当社のメッセージスローガンが重要なキーワードになると思います。現在は、お客様満足の実現に向けて、販売部門を中心に「“ココロも満タンに”宣言」という活動を展開していますが、製造部門や物流部門、関連会社など、グループの全社員が参加する活動に発展させていきたいと思っています。そして、社会に信頼され必要とされる持続可能な事業活動を通じて、お客様、株主・投資家の皆様、お取引先、ビジネスパートナー、地域社会の皆様、そして社員自身も含めたすべてのステークホルダーのココロを満タンにしていくことこそ、コスモ石油グループのCSR経営ではないかと考えています。